

中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(平成27年度)

中土佐町基礎データ

合併状況:平成18年1月に1町1村が合併
人口:7,369人(平成27年12月現在)
面積:193.40平方キロメートル

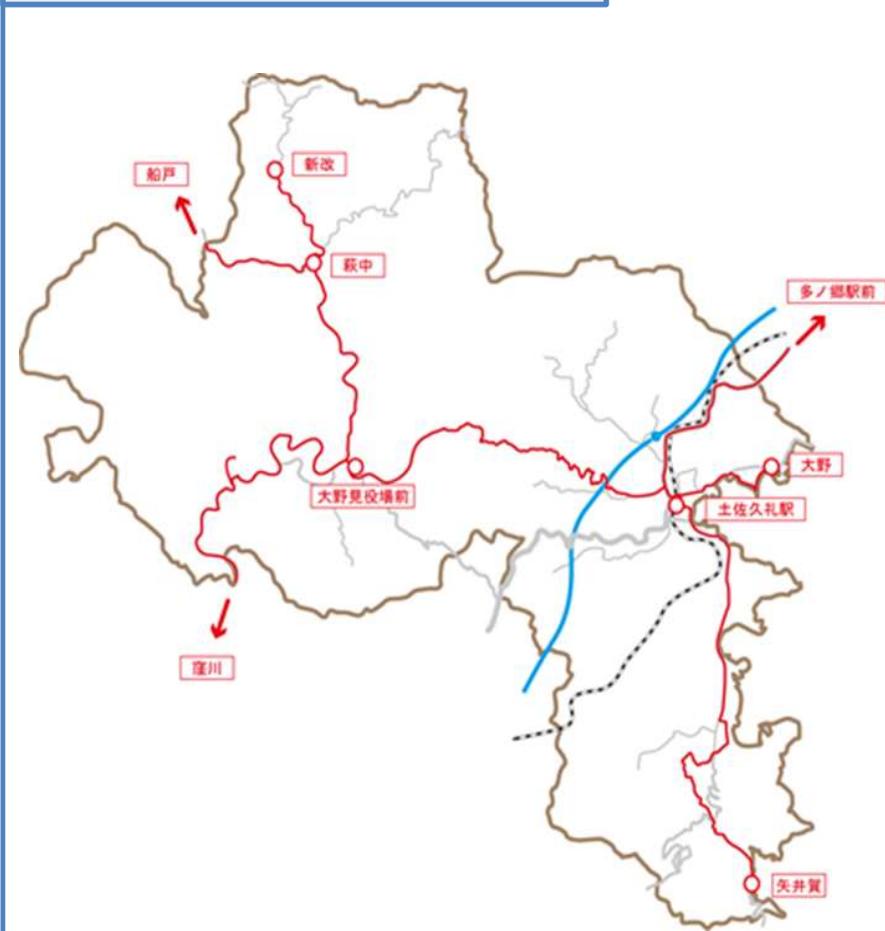
地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

中土佐町における主な公共交通概要

- 鉄道:JR四国(土讃線)
- バス
(幹線)
 - ①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を
経路する民間事業路線
 - ②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を経路する民間事
業路線
- (フィーダー)
 - ・町内を運行しているコミュニティバスは、全7系統
あり久礼地区では、5系統が土佐久礼駅を起点に運行
しており、大野見地区では、2系統が旧大野見北小学
校を起点に運行している。
 - ※平成27年10月1日から全10系統が運行している。

中土佐町の公共交通ネットワーク図



中土佐町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(平成27年度)

協議会の構成員

高知県 中土佐町 町内利用者代表
高知高陵交通(株) (株)四万十交通 (有)中土佐ハイヤー
(社)高知県バス協会 高知運輸支局 須崎警察署

前年度の事業評価における課題

現在までの運行状況と利用者・各地域でのヒアリングを通じて、利用者数の少ない系統や交通空白地域への新たな系統の確保など、引き続き各路線の状況及び利用者ニーズの把握を行い、各路線の再編・運行ダイヤの見直し等を検討していく必要がある。

定量的な目標・効果

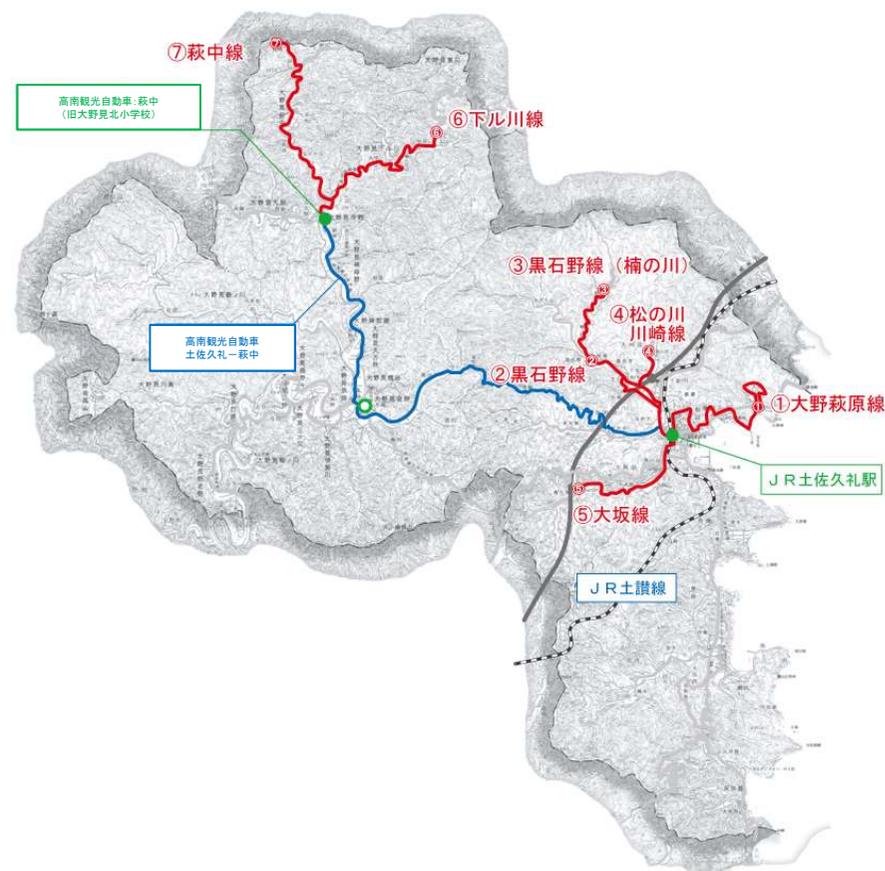
(目標)

- 系統(1)は、1日当たり利用者数を6人以上
- 系統(2)は、1日当たり利用者数を3人以上
- 系統(3、4)は、1日当たり利用者数を8人以上
- 系統(5、6、7)は、1日当たり利用者数を5人以上

(効果)

• 当該路線を維持することにより、公共交通空白地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保される。また、路線バスと連携することにより、広域的な移動利便性が向上する。

フィーダー系統図



「定量的な目標・効果」達成のための取組

- ・路線再編について、路線バス及びコミュニティバス沿線地域の住民との説明会及び意見交換会を行った。
- ・著しく利用の少ない区間について、利用者アンケート及びヒアリングを行った。
- ・地域公共交通会議を平成27年6月16日に開催し、路線の再編について協議を行った。

自己評価

事業実施の適切性

- ・平成27年10月1日からの再編へ向け、バス路線沿線地域の住民との意見交換会及び運行事業者との協議を行い、公共交通空白地区については一定の整備を図ることができた。また、JR及び幹線系統との接続ダイヤを見直し、利便性の向上を図ることができた。
- ・全体の利用者数としては、昨年度を上回っているものの、ほとんどの路線が目標値を下回っている。これについては、引き続き住民との意見交換会等を実施することにより、日々変化する利用者ニーズに対応できるよう、路線及びダイヤの再編を検討していく必要がある。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・(1)大野萩原線、(2)黒石野線、(3)黒石野線(楠の川)、(4)松の川川崎線、(5)大坂線、(7)萩中線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標を達成できていない。今後は、より利用しやすい路線となるよう、買い物や通院等への利便性を向上させるため、運行曜日・ダイヤの見直し等を検討していく必要がある。
- ・(6)下ル川線
:年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標を達成しており、公共交通の空白地域の解消、病院、買い物へのアクセス向上等住民生活の質的向上が図られ、幹線へ接続できる交通手段の確保ができた。
- ・(全体)
:昨年比で利用者数は増加しているものの、ほとんどの路線が目標値に達していない。目標値の見直しも検討し、引き続き検討をしていく必要がある。

事業の今後の改善点

- 中土佐町内の各系統路線別に利用状況やニーズを細やかに把握するとともに、これに応じた運行効率向上のための路線見直しや高齢者等の移動機会確保に努め、地域公共交通の利用促進に向けた広報や地域へのヒアリング等の取り組みを引き続き進めて行く必要がある。

その他PRポイント

※今年度新たに取り組んだことや、地元からの反応、他分野との連携取組等ありましたら記載してください。